①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・量を棒グラフや絵図に表すことができる。

・4年で概数の意味，5年で計算の見積もりを学習している。

○既習とつなぐ見方・考え方

・基準を設定すると，多い，少ないを判断することができることに気づいている。

教材研究ノート№5-D-1

≪学習問題≫

オレンジを5個しぼったら，次のような量のジュースがとれました。オレンジ1個からとれるジュースの量は，何mLとみればよいでしょうか。

140mL　120mL 100mL 　90mL 　150mL

≪定着・活用問題≫

授業計画･実施記録

主眼

≪学習問題≫

****

②見通し：移して同じにしたいが，どこからどれへ移せばよいか。

→1つのものを基準として移していけばよい。

②学習課題：真ん中の量や一番少ない量を基準にして，すべて同じ量にする方法を考えよう。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

③個人追究：棒グラフや絵図を用いて，ならす方法を考える。

④共同追究前半（解法の比較検討）

「どちらの求め方にも共通していることはなんだろう？」

→「出っ張りや引っ込みを，基準を決めてならしている。」

④共同追究後半（思考を深める）

「(140＋120＋100＋90＋150)÷5＝120の基準はどこだろう？」

→「すべてが出っ張りということは，0が基準になっている。」

「0を基準にすると，すべてが出っ張りになるので，たして5でわれば，5つに等分されることになる。」

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・基準を決めて多い，少ないを合わせて1つ分を計算する。

・0を基準にすれば，どれもはみ出すから，たしてわれば1つ分が求められる。

⑥定着･活用問題

210mL，200mL，250mLのジュースがあります。3つの量を同じにするために，ひろし君は，一番少ない200mLを基準に考え，平均すると1つあたりは220mLと考えました。

ひろし君の考えた方法を説明しなさい。

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・課題把握では，1個分が○mLになりそうという予想を大切にすることにより，移して考える際の基準となる量を意識させるとよい。

・100mLや120mLを基準とした追究で，基準とした量を意識させることにより，(140＋120＋100＋90＋150)÷5＝120の基準に対する疑問を引き出したい。

【板書計画】